

2019年度第4回中山競馬特別レース名解説

<第1日>

○ アスター賞

アスター (Aster) は、中国原産のキク科の一年草。名は、星を意味する古代ギリシャ語に由来する。別名エゾギクとも呼ばれ、赤・桃・紫・青・白など多彩な花を咲かせる。花言葉は「信ずる恋」「多様性」。

○ 木更津特別

木更津 (きさらづ) は、千葉県中西部、東京湾東岸にある市。東京湾アクアラインや館山自動車道などが通っており、市内には童謡『証城寺の狸ばやし』で有名な證誠寺や、「切られ与三郎」の墓がある光明寺など見どころも多い。

○ 紫苑ステークス (GⅢ) (秋華賞トライアル)

本競走は、秋華賞のトライアルレースとして平成12年に創設された牝馬限定競走。28年よりGⅢに格上げされた。なお、第3着までの馬には秋華賞への優先出走権が与えられる。

紫苑 (しおん) は、キク科の多年草。秋には、茎頂に青紫色の頭花を多数つける。花言葉は「思い出」「追憶」。

<第2日>

○ 習志野特別

習志野 (ならしの) は、千葉県北西部、東京湾に面する市。市域は下総台地と東京湾の埋立地で構成され、東京のベッドタウンとして発展している。また、市の西部には、ラムサール条約登録地である谷津干潟があり、多くの渡り鳥が飛来する。

○ 外房ステークス

外房 (そとぼう) は、千葉県南東部の太平洋に面する海岸。安房の国の外側という意味。冬も温暖で草花の栽培が盛んである。

○ サマーマイルシリーズ京成杯オータムハンデキャップ（GⅢ）

全3戦で実施されるサマーマイルシリーズの最終戦。

本競走は、昭和31年に創設された『オータムハンデキャップ』を前身とする重賞競走。34年に『京王杯オータムハンデキャップ』となり、平成10年に現在の競走名に改称された。創設時は現在と同じ1600mで実施されていたが、一時1800mに延伸され、昭和59年に再び1600mに短縮された。

京成電鉄株式会社は、千葉県市川市に本社を置く鉄道会社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第3日>

○ 古作特別

古作（こさく）は、千葉県船橋市西部の地名。同地に中山競馬場が開設されたのは昭和3年。建設工事の際には、後に「古作貝塚」と名付けられる縄文時代の遺跡が発見されている。

○ 松戸特別

松戸（まつど）は、千葉県北西部の下総台地と江戸川の沖積平野にまたがる市。江戸幕府直轄の放牧地であった小金牧で知られているように、古くから馬と縁の深い土地柄である。明治から大正時代にかけては、現在の中山競馬場の前身である松戸競馬場があった。

○ レインボーステークス

レインボー（Rainbow）は、虹を意味する英語。空気中の水滴によって太陽光が分散されて生じる複数色の光の帯のことで、雨上がりに弧を描いて現れることが多い。

<第4日>

○ 汐留特別

汐留（しおどめ）は、東京都港区にある地域。かつて旧国鉄の貨物ターミナルがあった。現在はその跡地を利用した再開発が行われ、多くの商業施設やホテルなどが建設されている。

なお、同地にはJRAの場外勝馬投票券発売所であるウインズ汐留がある。

○ 初風特別

初風（はつかぜ）は、季節の初めに吹く風。特に初秋の風のことを言う。

○ ラジオ日本賞

ラジオ日本は、横浜市に本社を置くアール・エフ・ラジオ日本の通称。昭和 33 年開局。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 5 日>

○ 白井特別

白井（しろい）は、千葉県北西部、下総台地に位置する市。北総鉄道が通じ、住宅地として発展している。梨や自然薯の生産が盛ん。

なお、同市は JRA 競馬学校の所在地でもある。同校は昭和 57 年開校で、騎手課程と厩務員課程の 2 コースがある。また、施設内には国際厩舎があり、国際交流競走のための検疫業務を行うことができる。

○ 1999メモリアルエルコンドルパーカップ

本競走は、20年前のJRA賞年度代表馬エルコンドルパーサー号の名を冠した競走。

同馬は、1999年に長期の欧州遠征を敢行し、サンクル一大賞、フォワ賞と連勝。その後の凱旋門賞では半馬身差の2着に敗れたが、これらの成績が評価され、JRA賞年度代表馬に選定された。

○ 朝日杯セントライト記念（G II）（菊花賞トライアル）

本競走は、日本初の三冠馬で、顕彰馬でもあるセントライト号の功績を称え、昭和 22 年に創設された 3 歳馬限定の重賞競走。当初は 2400m で行われていたが、55 年以降は 2200m で実施されている。また、負担重量は別定、定量を経て、平成 15 年からは馬齢重量となった。なお、第 3 着までの馬には菊花賞への優先出走権が与えられる。

朝日新聞社は、東京など全国 4ヶ所に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第 6 日>

○ 清秋ジャンプステークス

清秋（せいしゅう）は、空が澄み、空気の清らかな秋のこと。時候の挨拶などに用いられる。

○ 九十九里特別

九十九里（くじゅうくり）は、千葉県山武郡の町。九十九里浜は、千葉県北東部の太平洋岸の、北は刑部岬から南は太東埼までの約 66 kmにおよぶ砂浜。九十九里浜で獲れるハマグリが有名で、海岸沿いには焼きハマグリが味わえる飲食店が並ぶ。

○ セプテンバーステークス

セプテンバー（September）は、9月を意味する英語。ラテン語で「7番目の」を意味する「Septem」に由来する。古代ローマ暦では、3月が年始とされていたことから、3月から数えて7番目の月にあたる9月を指す。

○ ながつきステークス

ながつき（長月）は、陰暦9月の異称。語源は、夜が長くなる月の意の「夜長月」という言葉を略したものと言われている。

<第7日>

○ 芙蓉ステークス

芙蓉（ふよう）は、アオイ科の落葉低木。暖地に自生するほか、観賞用に栽植される。花は一日花で、花色が変化する品種もある。花言葉は「繊細美」「富貴」。

○ 内房ステークス

内房（うちぼう）は、千葉県南西部の東京湾浦賀水道に面する海岸。外房に対し、房総半島南端の洲崎から北の富津岬までを言う。海岸線のほぼ全域が南房総国定公園に属し、夏は海水浴場として賑わう。

○ 産経賞オールカマー（G II）

本競走は、昭和30年に創設された重賞競走。当初は3歳以上のハンデキャップ戦として2000mで実施されていたが、距離は59年に2200mに延伸され、負担重量は数度の変更を経て平成7年から別定となり、現在に至る。平成7年に国際競走となり、G IIIからG IIへと格上げされた。なお、第1着馬には同年の天皇賞（秋）への優先出走権が与えられる。

産業経済新聞社は、東京と大阪に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第8日>

○ カンナステークス

カンナ (Canna) は、カンナ科の多年草。茎は肥厚した根茎から出て、大きな楕円形の葉を数個つける。夏から秋にかけ花茎を出し、大きな花を次々と咲かせる。花言葉は「永続」「堅実な未来」。

○ 茨城新聞杯

茨城新聞社は、茨城県水戸市に本社を置く新聞社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 秋風ステークス

秋風 (しゅうふう) は、秋になって吹く涼しい風。「あきかぜ」とも言う。

<第9日>

○ サフラン賞

サフラン (Saffron) は、アヤメ科の多年草。南ヨーロッパから小アジアが原産で、10～11月頃に球茎から芽を出し、紫色の花をつける。赤く長い3本の雌しべは、薬用や染料として使用されるほか、香辛料として料理にも使われている。花言葉は「歓喜」「陽気」。

○ 勝浦特別

勝浦 (かつうら) は、千葉県南東部、太平洋に面する市。中心の勝浦地区は漁師町、市場町として発達し、朝市は近世以来の伝統をもつ。勝浦港は県内有数の水揚げ量を誇り、特にカツオの水揚げ量が多い。

○ スプリンターズステークス (G I)

本競走は、昭和42年に創設された重賞競走。当時、3歳以上の馬が出走できる唯一の1200mの重賞競走であった。59年のグレード制導入当初はG IIIだったが、62年にG IIへ、平成2年にはG Iへと格上げされた。12年より実施時期を従来の12月から繰り上げ、秋競馬最初のG I競走として定着している。短距離路線のチャンピオンを決める一戦として、『高松宮記念』と並び大きな目標となっている。

○ 鋸山特別

鋸山 (のこぎりやま) は、千葉県の房総半島南部に位置する標高329mの山。その名のごとく鋸の歯のような形状を呈している。また、東京湾・三浦半島・富士山を展望でき、国土交通省選定の「関東の富士見100景」にも指定されている。